

もの忘れ散歩のできる街に

認知症高齢者が増加し、「徘徊」も問題。本人にしてみれば散歩に出て道に迷っているということも多い。私が提案した認知症サポーター養成講座も5年展開しているが、まだまだ、理解がすすんでいるとはいえない。

「街で困っている人に出会ったら その住所を確認して 迷わず 110 番 !!」

という理解をもっと進めるべきである。

最近、区は、メールマガジンやツイッターで情報提供している。迷子のお年寄りの情報を流して、「迷わず 110 番 !!」の普及に努めるべきと思うがどうか。

区：認知症サポーター養成講座をうけただけになってしまっている状態だと認識している。体制を改善し、メールマガジンやツイッターについても検討したい。



古い支度を考えるよう区民に啓発を

足立区の取り組みを参考に

古い支度の啓発本が話題になっている。50代から楽しい老後を準備するよう区民に呼びかけている足立区の取り組みが参考になる。介護予防も、孤立防止も、個人の自覚がまず必要だ。ぜひ、荒川区でも、地域の情報を紹介しながら、元気で、自立した古い支度の実践をひろめてほしい。

区：参考にしたい。



包括支援センターの増設を

荒川区は4万人に1か所 VS 足立区は2万人に1か所。担当地域が広すぎて、きめこまやかな支援ができないのではないかと。

区：まず尾久、次に日暮里に増設を検討している。

ひとり暮らし高齢者見守りに「あんしん協力員」制度を

ご近所で、ひとり暮らし高齢者などの見守りに協力できる住民を登録し、研修を行い、活動してもらう制度を検討すべき。民生委員に協力する、認知症サポーター、ボランティア等を養成したらどうか。

区：検討したい

高齢者と幼稚園の交流事業の促進を

昨年の実績は？

区：なし。交流を予定していたが、風邪の流行でできなかった園が1園あった。
せの：あまりにも少なすぎる。入居の高齢者にとって、とても楽しみなことであり、生きがいにもなる。子どもにとっては、敬老の心が育つ。もっと積極的に取り組んで欲しい。



区役所での障がい者雇用を

他の自治体では、ワーキングシェア事業として、障がい者雇用に取り組んでいる。荒川区では？

区：検討している段階

せの：例えば、八王子市は2006年からリサイクルペーパーの結束 シュレツダー 押印作業、チラシ折込 パソコンでのデータ入力などにジョブコーチをつけて、障がい者を雇用している。東京都も始めている。もっと努力してほしい。